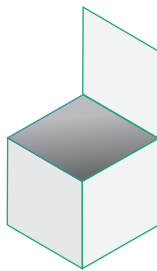


感想の小箱

自分だけの小説を創る!

-対話型AIの使い方-



最近、対話型AIでの使い方から、タスク消化などビジネス面において使うなど多岐な使い方が増えてきたかと思います。ただし、まだまだ調べもの時にはハルシネーション(幻覚)との戦いですし、昨今料理画像だったり店のPOPに使われた場合、典型的なAI画像っぽくなってしまふ。

今年の夏、中止になった琵琶湖での花火大会の騒動でもAI画像などの一辺倒でリアル感がないというのも指摘されていましたよね。なので、個人的にその辺りを無縁で使うというのが「対話型AIを使って、自分のお題で自分だけの小説(物語)を書いてもらう」です。

実はその手のサイトがあるのですが、そこはある意味AIと共作だったり、いわゆるアイデア出し向けだったりするので意外とこの使い方をしているのは少なかったりします。

ここで、いわゆる各AIの特性(安全志向・踏み込みOK志向など)や、文の組み立て能力と言うのがそれぞれバラバラで、向いているAI、向いていないAIというのが如実に分かります。得てして各AIの日本語物語の生成能力テストになっているような雰囲気になります。

そして、まず、

- ・自分が気に入らない展開にさせないようにできる
- ・自分好みの物語でなければ即修正し、微調整が出来る
- ・各AIの特性によって物語ジャンルの使い分けが出来る
- ・ハルシネーション気味なものも創作なので独創性に置き換えられる

など、いわゆる構成の立場で作家に書いてもらうような気分です。独自小説を楽しめるのではと思うのです。

読書離れの解決策は実はこれかもしれない・・・。

T-LEVEL

profile T-LEVEL

ずーっと岡山県在住。

映画、ラジオ、PC&スマホガジェット、旅行、スポーツ観戦、食などなど、その時自分のアンテナに引っかかったものを感想の小箱として発信!



月に出ぬ間に

AIによるコンテンツ制作の崩壊の中で生きていく

紫水DANNA勇太郎/居待月

今、あらゆる分野でコンテンツ制作が崩壊している。音楽、絵画、写真、動画、文筆……もちろんその主因はAIによる。ChatGPTで歌詞を書き、それをSunoに読み込ませれば簡単に高度な音楽が作れる。絵画やイラスト、写真はほぼどのAIでもちょちょいのちょい。Google veoとかSeedance等を使えばかなり高度な動画が作れるらしい(やったことないけど……そういうえばハリウッドでフルAIの映画が作られたってニュースに当たったなあ……)。文筆なんて既にAIを組み合わせた作品が商用販売されている。

つまり、誰でも簡単に、それも特別に技術を必要とせず、また極めて短時間に高度な作品を作り出すことができる時代……さあ自分のようにチマチマと自分で作ってきたおっさんにとっては大変困った状態と言える。でもこれにあらだこーだ言っても始まらない。だって実際とてつもなく便利だから、調べ物や企画書の骨子作り、制作物に使用する写真やイラストの作成や加工、等等、かつてデザイナーでありレイアウトウターであり、コピーライターでもあり、イラストも描くし写真も撮って、コーディングもやりつつ、著書も何冊か出版し、多くのノウハウを伝えるセミナー講師としても活動してきた自分の手足を食べるタコのように、使いまわしてしまっている上に(この文章は自分で書いてるけど……)その流れはきつと止められない。



そんなことを考える中でメディアの役割もだいぶ変化したり、今後もっと変わると考えるし、またもつと考えるやなあんなことも思いつつ……大変勝手にわがままながら、長年書かせていただいていたこちらのコラムから引退させていただきます。編集そして奥様には、長い間本当にお世話になりました。申し訳ございません。そしてこれまで読んでくださった皆様、本当にありがとうございます。しばらくの間、この激しく

profile 紫水 DANNA 勇太郎

あらゆるジャンルの表現者・アーティストと出逢えるサイト「Spinart-スピナート」運営。
ミュージシャンとしても音楽作品を各種サブスクメディアでリリース中。
愛うさぎ「うみ」のYouTube 動画「うさぎのうみちゃんねる」のおじい。
Web 戦略企画制作、Web・SNS 関連著書多数、スタッフ育成、Web 運用セミナー講師、等。
詳細プロフィールや連載記事はこちらをご覧ください。
<https://www.spinart.jp/contents/writer/utaro-shimizu.html>

移りゆく激流の中での泳ぎ方なんてものを考えてみたいと思います。
※ちなみにこの画像はChatGPTに簡単な命令文(プロンプト)を伝えたら、一定程度で仕上げてくれたものです。